日記から

吉永　公祐

2017 年 11 月 3 日

上妻君の呼びかけで高千穂、藤田英介、伊藤敬、林小崎、大城、
宮川、横、森、鳥居、勝木、本田、柴田、松本精史、吉永、金沢、中根
山[illegible]19名が集まり同窓会の立上げを話し合った。当時RKKの
アナウンサーだった本田享兄とNHKのアナウンサーを今務っていた
高千穂光の司会で卒業後消息のわからなくなった27年間の
仲間の会をつくろうと話し合ってみた。高校制度改革の時期に
あって旧制熊中5年制の学校に入学した人たちは旧熊本中学校
が空襲で焼け基礎石だけが残っている旧校舎跡の農作業
に取りくみ自分たちは旧第16師団兵舎跡で学業に取りくんだ
ものだった。他の学年とちがい昭和21年4月に入学した熊中は旧制
中学校最後の学年で5年制の編成だった。入学当時上級生に
は軍人あがりの5年生や4年生がいて威圧を感じたものだった
校舎は兵舎跡で窓ガラスは破損し渡り廊下などなかったので
もとの幼年学校から使いなしの分を運んだものだった。戦時色の
強かったカリキュラムでなくアメリカ流の自由主義教育が採用され
各自が自由に教科をえらび時間ごとにクラスを変ったものだった
一応クラスは決まっていたけれど授業ごとに教室を変わるため多くの
友達と知己になることが出来た。県下の各小学校からえらばれてコリコリ
したタイプもいれば中の中位もどうにか自分よりもくらべものにならないくらいの実力者た
ちがいることを知らされ気落ちさせられたものだった。小学生の4倍学級
を経験した人たちは1クラス60名近くの友に囲まれさらに級長や一年生く
して熊中を目指した上級生などは学校では経験したことのない友人関係
を持つようになった。特に記憶に残った授業として今村先生という
国語の先生が騒がしい生徒たちに授業のはじめ開口一番「幼稚園を
去れ」と教えられた。騒がしく落ちつきのない生徒たちに「君たちは天下
の熊中生になったいつまでも幼稚園気分でいては駄目だ。知識を求める
大人の仲間に早くなりなさい」と教えられたことだった。むずかしい英語
数学、物理、化学など生徒たちにはむずかしい教科となった。小学校
の復習とはちがい次の日の準備に宿題をやらねばならず毎日は時間
が足りないくらいだった。翌日の数学の問題解答などが既のいたくな
課題だった。英語の大田、村橋先生、数学の黒田先生の授業のある日
は絶教科をのけて問題解答の連続に入れたつもりだった。
授業はむずかしかったがすぐれた指導者の先生方に恵まれ理解出来
るまで教えていただいたので小学時代とはくらべものにならない
知識を吸収することが出来たようだ。毎時間が厳しくまずたけれ
どそのために身についた学力が上級学校進学への基礎となれた
ことは有難いことだった。

昭和21年の4月に入学したが2年生になる時 新制中学校制度が発足されるようになり22年度入学生は男女共学第一期生となったのだった。男女共学の経験のない21年入学生たちは下級生の女生徒への興味にとらわれたものだった。特定の女性名などにさやかに話題としたものだった。「男女7歳にして席を同じうせず」と教えられて来た新2年生には埋蔵の花として話題にさやわせたものだった。それでも時代意識の強かった2年生たちの話題は放課後 道歩いた上級の4・5年生たちのセーラー服への憧れだったようだ。まぜた友達は母校の女学校生の特定の女性について話題をにぎやわせてくれた。ひしゃっ合のめざめをうながわせてくれたものだった。後日このころの共学経験者たちに多くのカップルが生まれたことをほほえましく耳にしたことだった。しかし一般的にはそんな機会を持つことの出来ぬ大半の人たちには得意になって女性たちと手を合った時の楽しさ、うれしさをうらやましく聞いたものだった。でも2年生になることで幼なかった小学校時代にくらべはるかに大きな知識を授け合れることが出来 教科以外の大切な異性への学問を獲得したものだった。休み時間 昼休の時間などその道にかけ多くの知識を持った友達をかこみ異性への接し方などいろいろ教えてもらったことだった。特に一町先輩だった名和君など花街に住んでいたのでそこにすごす女性や相手にする男性などについてくわしい知識を教えてもらったことだった。矢張り5年間の色中生活では学問的な知識も多く吸収したけれど特別にそんな異性への知識も多く学ぶことが出来たように思う。急速に大人になる友達 じっくり大人仲間に成長する友達などいろいろあったようだ。特にその点について記憶に残ることは学校への通中もとの工兵隊、騎兵隊がすごした兵舎など多くの友達の記憶に残っている場所だ。学校帰りにまわり道して多くの友達はこの兵舎跡を訪ねたものだった。ここでは駐留軍の兵隊たちと彼らを相手とする女性の楽しみが各々くりひろげられていた興味を抱く連中たちの中には行軍中の男女に見入り翌日の話題とする者や戦の後の伝った逸話の話などに得意になって聞き入ったものだった。今日とちがい正式な教育が全くなかった成長期 雑学として身につけざるを得ない有様だったけれど逞しい探究力がそれなりの学習を身につけたと云うことだろうか。それにくらべ近年の若い人たちはいろいろの知識を学習する環境に恵まれていながら、結婚をさけたり子供づくりを無視したり新角度をつくっても短期間でこわれてしまったりと異例が多くなって来たように感じる。現在学校の周囲はすっかり変ってしまったが一番目につくのは大学進学のための予備校が軒を並べていると云うこと。世代の過渡だけでは東京の学校へは行かなかなかむずかしいと云うことのようだ。世代が予備校化して来たと云うことは悲しいこと。これも時代の変化と云うことだろうか。学校が終ったら近くの予備校で夜おそくまで更なる知識に挑戦。自分たちのころには とても考えることの出来なかったこと。「東大」「一橋」「慶応」「早稲田」進学 加学校の評価基準とはなりけないこと。人生は学校だけではないのだぞと云ってみても「時代おくれのことは通用しないぞ」と云われるだけ。各地に散っていった友と結び四江会の形成について考えながらまず時代を共にした友達との四江会を考えてみたことだった。

第1回 四江会総会　1972年4月16日（S47）

4月3日の準備会の際 会の名前を何としようかと提案があった いろいろ提案されたけれど 結局 乙丸先が提案した「四江会」が採用された 母校の色（明治紅白）の同窓会は江原会と名付けられている そこから生まれた新鮮な響きだし 4回卒業生だから「四江会」とえいえば一番いいと考えるから これを採用しようと決めたのだった 今はもう乙丸先に謝意をあらわしたいと思う

第1回は[redacted]で実施された 集まった友と柳沢先生、川越先生と撮った
交通センターホテル　で写真がなつかしい

1976年
S 51.9.11　台風のさなかと接近の中 四江会会員 喜野旅行に出発
小野 内山 清水 山野 坂田 中根 竹下 上条 松本 [redacted] 黄 吉永
松本英治 仲瀬 [redacted] 河口 内田 永田博久 永田志津子 [illegible] 島田
以上19名の参加 大村別館に宿泊 翌日 奈良 山系の旅行
夜は宴会を呼んでさわぐ 1万5000円の会費に1万円の追加 世話役の
小崎君が気をつかってくれた 翌日 新薬師寺に参詣 さらに
柳川の白秋記念生地を訪ねる お花を訪ねバスの旅の楽しかったこと。

1976年
S 57.12.17　四江会忘年会
会の度に親交を深めることの四江会 今回も30名程 元教者の竹下松男先
たちが参加し会をにぎわせてくれた この会までは乙丸先の元気な姿をみか
けることが出来た 会の命名者の彼が早く逝ってしまったことがうらめしい。

1980.8.16
第3回 母校創立80周年記念同窓会
交通センターホテル
前回の会ではしゃいでくれた[illegible]が亡くなったので前におかける前にお[illegible]
に行った 記憶あり 山系大変世話になった友 いつも彼が健康だったなら
と思い出す人物だ この頃の会は1984年50才になってからだ
受付役だ[illegible]ので早目に会場へ 元永 川越 広島 市川 山内 平岩 宮
が見えた 名和君が都合でこれなくなったので彼の知人の
石橋おみどりさんが参加し会に花をそえてくれた 小池 豊田 [illegible] 山野 名
はじめ10%近くが参加してくれた 一番遠いところから参加したのは
金沢からやって来た赤星君だったので彼に乾杯の音頭をとってもらった

S63.3.13 1988 6時半から交通センターで第5回総会を開催 会場に掲示するため 旭中、旭高の校旗を借してもらったので早目に会場に掲示しておくこともあり早目に出かけた 本田草兄の司会で開会 川越 山内 広島 三先生が出席された まず高千穂君の先輩で物故者の冥福を祈った 川越先生 山内先生方から近況報告をいただく 関西同江会から鬼不阿郎兄 東京から河野 古賀 藤田の三兄が見えた 司会の本田兄から母校に勤務している縁に旗手の指名を取と指名してくれたので先生方と4年後の同会を元気で実現出来るようにと発声した 全体の集合写真を撮れなかったので各テーブルの諸兄をスナップした 散会後借用していた旭中 旭高の校旗を収納 校旗を仰ぎながら母校歌をうたう時のうれしさ 嬉しさ 会場にかざることが出来てよかったと一人よろこぶ ロビーで本田、西島 藤田兄たちと鬼不阿たちと楽しそうに談笑し合った

2002.10.18　　No4

6.30分より日航ホテルで総会　卒業以来はじめて参加するという
辻君、廣三名を迎える　遠来の友として群馬の山田君の姿も見えていた
懐しい友ばかり　はじめ校舎で6年間生活を共にしていたと云うだけで
級兄知のくばかりだった　名前などわからないけれどすぐ打ちとけて
話し合っていた　東京から加藤　藤田　伊豆野　斎藤兄　大阪から
は西郷、のり平の陽子兄が見えていた　いつものように懐かしの同窓
会長の歓迎の挨拶はうれしかった　山崎先生と松浦前
校長先生が参会　100名近くの友が集まった　山崎先生は
この会に参加するのが一番うれしいことだとよろこばれた
三年前に奥さんを亡くされ　友達は奥さんを大事にせいやいと
度々云われる　前川兄が見えていたが親友の米村竜治兄
が大病を患らったと話してくれた　彼はあまり酒とおこな
いので友達の噂にもあまりおてまくいようだ　特別うたったのが
深くも同窓と名残りをおしみながらいつものように江藤兄の
指揮で校歌を歌った　4年ごとに若き日にかえり青春の日
を思いだしながら歌う　私に全峰は胸のうにしみ渡る程だ
また次の会にも元気に参加し全員で歌うぞと固い約束して
会を終った　いつもにくらべ高千穂兄元気がなかったのが気になった

2003-10.25　四江会臨時総会の日　6時30分より鶴屋で開会
いつものように懐かしの同窓で同会　山崎先生だけの参加。
先生のお話は心にしみ渡るもの　自分の教師生活の中でこの会
ほど自分を大事にしてくれる会はない。有難さで一杯だと話された
東京から見えた中澤君が乾杯の挨拶　彼は会ごとに参加してくれる
吉本、米村兄　体調も快復元気な姿を見せてくれうれしかった
米村兄は日頃とか元気がないのが気になる　途中つかれて
とり帰っていったのは寂しかった。あの元気者の米村兄が。
多分最後のわかれ目を覚悟して来たのだろうと話す友もいた
くやしい。出来るだけ長生きしてくれよ米村君。今年は林田兄の
奥様が急逝、岡村、桜木、斎藤兄らが揃ってくれた
早野　辻　本田　伊豆野　博多　藤田　早苗君などと懇談に時
合っていた　米満君がこの会になって欠席をなくしましたと話してくれ
たのは嬉しかった　江加藤はつらいものだ　すばらしい彼　彼君
と同じ子供さんの死　心からのおくやみをのべて別れたことだった

2004.10.15　60時半からメルパルクで総会　なつかしい顔が揃った　No5

このごろは川越先生だけが来会されるようになった　田仁会の「ゴッドファザー」だ
名簿には77名のお席番の名前があった　東京から関根　横本　安藤
藤田氏・大阪から阿部　博多から内田　北九州から米塚氏が参加して
くれた　今年も亀田　赤星先輩　中山氏の訃報が告げられた　ふえることの
ない会のメンバー　お来られるだけ元気にしてもらいたいものだ　高千穂氏も忙
しそう　久留米での講演会があるそうで欠席　彼の姿が見えないとさびしい
病気の内田氏も無理を押して来てくれた　奥様の付ききが必要になった
と話してくれた　馬田氏も同じ病気だとのこと　男子部で指導したころの彼を
思い浮べられての参加を送ったことだった

2005.4.28　1976年の田仁会の立ち上げから大変世話になった高千穂正史氏
が死去した　ラジオや新聞、講演会など各方面に活躍するとともに企業
の仏壇店の傍らとして多忙をつづけたことがその遠因だったのかもしれない
明日午後2時般で葬儀が行われるとのこと　小学校以来の友だった
彼の死去は小生にとって大きな痛手となるものだった　ふる郷の友人たちに
彼の死を伝えたことだった

9時ごろ博多の内田氏から彼が亡くなったそうだが知ってるかと電話を
もらった　一瞬言葉を失ってしまった　黄氏が東京の藤田氏に連絡し更に
関根氏に伝えたのを内田に連絡したのだった　4月2日の小学校
4日の田仁会花見の折には元気だった彼に会った折には元気だ
ったのに　今年は心筋硬塞でなくなったとのこと　行きつけのコーヒー店
でなおれたとか　いろいろ事物を愛する彼は多忙な時間をいやすために
よくコーヒーを飲んでいた　さらにノンスモーカーで先日の会でも度々
喫煙のために席をはずしていたのだった　おしいかな逝ってし
まい会員の皆さんはきっと大きなショックを与えられることだろう
心からご冥福を祈ろう

2005.10.21　鶴屋で総会　80名近く参加　東京、関西田仁会よりいつもの友
今回も福島の山田氏が見えた　遠くはなれた郡山の地学校はほとんどいない
のだろう　故郷恋しの彼の気持わかる気がする　川越先生が遠くから
来てくれた諸氏と撮りたいと云われるので撮ってあげて下さいと黄氏から
依頼されたので先生を囲み撮ってみた　東京から見えた藤田氏の
報告では近日中に東京田仁会を計画しているとのことだった　懐かし
岡本氏から過去の会で敏に会ったと連絡があったらしいなつかしい友だ
懐かしい校時代にわかれてから来た　会いたいの気持

2006.10.23
いつものように川越先生が出席されたたった一人の先生かわいがった学生たちに会うのをよろこんでおられることだろう　参加者の名簿78名の参加とある
珍らしい友としては小池 赤木 竹村 竹下 吉本先たち3名の名前があった
東京の仲原、大阪の樋本先も見えており明日は川越先生といっしょに阿蘇で
ゴルフ会の仲間とゴルフをする予定だとのこと　千葉の米田君や東京の加納
岡本先たちから東京、四国会に是非参加するようにとのこと。能本から出席する
人が少ないとのこと　おかえしをしなければと思い参加を伝えた。
校方の磯海先は昨年10月奥様を亡くしてさびしくなったと伝えていた

2006.11.17　5時30分から東京銀座の松阪屋で東京、四国会開催
京王線終点十日市駅で下車　岡村先に案内してもらって会場へ。加納、宮脇
関村 藤田 伊津野 清水 横沢先らが見えていた久しぶりに会う諸友たち
能本から小川 赤尾先も参加　変わった能本、能高について挨拶。瀬口
も来ていた　小学校からいっしょだった友、旧姓緒方さんという人が見えて
いたので女子クラスの人たちを撮った写真を渡したら、とてもよろこんで
もらった　帰宅したらコピーして送ることを約束した。四国会で撮った写真
を川越先生に送ったら多くの出席者を思い出したと名前を書いて送って来られた

2007.10.19　6.30分鶴屋で今年の四国会　勝本先病気で入院とのこと。
吉良中根先も今度は不参加　四名の友が死去していた。その中
に同じクラスだった野新八郎先の名前があった　いつものように
徳島の山田先 神戸の宇野 浜田 能代 林田 阿部 樋本先 東京、
の岡村先も見えていた　出席者は80名近く。広島から珍らしい友
木村一夫先も見えていた　卒業以来はじめて会う友。吉本先がさそっ
てくれたのだろう　前川が出て来ていた　いつもこられる川越先生は病気
のため見えなかった　恢復が早いようにと祈る

2008.10.17　鶴屋で開催　黄先から集合写真を撮ってくれと依頼があったので準備
して出かけた　いつものように吉良 内山 松本先が受付にあたってくれた
出席者の名簿72名とあった　関西四国会の林田 阿部 磯海先
宇野先 東京から仲原 岡村 藤田 米田正香 樋本 辻 諏三 小池先などが来
られた　こんな席には必ず川越先生の姿があったのだけれど昨年
11月に死去されたので学年のシンボルを失いさびしさをおぼえた
胃の手術で2回連続不参加だった勝本先も元気に動いていたが
やせていたのは止むを得ず　恢復が早いようにとわかったことだった

2011.10.21　6.30 鶴屋で総会　勝木さんから乾杯の音頭をと依頼された　今年は東京からの参加者がいないのでとのこと　黄さんが14日の朝日新聞にのっていた友人不在期人者の中学時代の思い出を紹介してくれた　英語のタツヤ先生のなつかしい思い出は出席者の心にひびいたものがあったことだろう
個性のあふれた先生方のなつかしい思い出だった　久しぶりの友との再会に感激　来年もまた元気に再会出来ることを祈念し　乾杯とビールを傾けた
うまいビール、楽しい友といっしょにスナップしてくれと迫ったのもそれシャッターを押すたびに一枚、二枚でも貴重な思い出として残ってくれることだろう。博多から見えた小園さんがケントを振ってくれ市高の「西に金峰」を歌う　関西から出席した宇野、林田　安倍　桜木さんたちに最後のテープを渡してやった。なつかしんでくれることだろう　青春を思い出してくれればうれしい。

2012.10.26　今回は卒業60周年記念の年　これから県外へ同窓会は現地で実施してもらうようにし　今年は地元の友を中心に行うと決めての会だった
卒寿の歳をむかえる会員を考えてのことだった　懐しい顔に会えるのがうれしい
[redacted]に集まった友をスナップしてみた　東京からは明石　藤田　甲斐　鬼木　加納　栗谷さんたち　特に栗谷さんはじめての参加とのこと　加納さんも難聴が進んだとのこと　藤田さん最近体調を恢復させたと話してくれた　前回見えなかった阿部さんの顔もあった　林田、宇野さんは相変らず久しぶりの会の前に集合写真を撮ってくれた　天寿を終えの思い出として参加の諸さんを残すのはいいこと　本当なら毎回記念として撮るべきだと思うのだけれど　東京から来てくれた甲斐君は声帯がんを手術たどで筆談で会話していた　昔なつかしい学生時代の写真を持って来てくれていた当時の先生方の写真を持って来てくれそれぞれのニックネームをたしかめていた　最近の生徒たちにはユーモアを解する者が少くなり先生方のニックネームを思い出す者は少くなって来たようでさびしい　当時の大西校長先生のような大校長がいなくなりに最近の学高はさびしくなった　72名程の参加者　島さんが来ていなかったのはさびしかった　元気者の役の姿が見られないとは　仙波さんも見えていなかった　中根さんの三味線で乾杯　小崎さんは無にチューブをされての参加　博多の内田の姿が見られなかったのは残念だった。どうしているだろうか

2013.10.18　今回から地元だけということで42名の出席者だった　それでも東京から藤田、岡村　寺永さんの活躍　関西から宇野、桜木さんが代表として来られた　体調をこわした沼田さんも酸素吸収器をつけて参加してくれた　まだ水俣の住宅から人吉の病院まで勤務していると話してくれた　いつも最後は江頭さんのリードで校歌を歌うのだが欠席のため宇野さんといっしょに壇上で校歌をリード　大声で校歌を歌うのは楽しい　幸福感にひたりながらの散会だった

2014.10.17 会長の黄先いつもとちがい総合が高令者 遠距離参加の決断に行った時の経過を長々と話してくれた。今回まで4名の逝去者があったことを聞く その中にすぐ近くに住む後藤氏と川原の米満氏の名前があった いつもほがらかに笑い顔を見せてくれていた米満氏が逝ってしまったと知り一段と[illegible]をおぼえたことだった。今年の会は50名の参加者。
阿部、横林の大阪組、岡村、藤田の東京組 発起として遠路参加してくれた 藤田氏の話では11月19日に東京同窓会が計画されているとのこと。岡本 加納 渡口 藤原の諸氏たちが集まるとのこと 前川は昨年の7月心筋梗塞を患い静養中とのことで参加しなかった それぞれがいつまでおれるかわからない年令になったので

2015.10.9 東京の藤田、岡村両氏 郡山の[illegible]氏 神戸の宇野、村田 木村氏たちが参加してくれた 遠路 遠方の会に時間を割いてくれる気持ちはうれしい この年令になればなかなか他郷へ足を運ぶにとまどうのに。11月には東京同窓会に入て集まることのこと 渡口や岡本も元気に参加してくれるとのこと 加納氏も難聴が進み各会への参加も出来なくなったと聞きさびしさをおぼえたことだった 今年は50名の参加。事務局のご苦労で14名の方近く連絡したけれどいつも近くしか近況報告はなかったと「ひとこと集」に紹介していた 新田、白石 高本西山 寺村 成松 小西、林田 [illegible]の諸氏が他界したと報告された これからますますさびしいニュースを聞くことになるだろう いつかは果てる 年令 祈願もった人生だ いそぐことはない おたがいにれつく人生を楽しもうではありませんか

2016.10.21
東京の藤田 岡村両氏 郡山の[illegible]田 関西の宇野 林田氏の発起の参加は感激 「ひと言」集には本人だけでなく奥様や息子さんの不幸などが紹介されるようになって来た 83才になってこれだけの友が元気に集まれるのはうれしいこと 前後の年齢はどうだろうか 神戸 藤誠一君が昨年3月に逝去していたことを知る 吉本氏 [illegible]氏 [illegible]氏 [illegible]氏 博多の内田や秋山の消息がたえたのは寂しい

2017.10.20
待ちに待った総会の日 52名の参加 いつものように関西の宇野 村田 横林 [illegible]氏 東京からは藤田 岡村 西氏 [illegible]氏の司会 彼も元気を恢復してくれたようでうれしい 恩師から「仙台同窓会のページ」を作りたいけれどと提案 会員の賛成があった 各地の友がホームページを見れば消息をたしかめることが出来るのだ 恩師のご苦労さまより越前のごろ恩師が見られており先生の文章を全員の前で読まれた いつまでも同窓会の諸友を愛しつづけられた先生だった ご冥福を祈ろう

2017.11.3 文化の日 文責 故[illegible]

2016.5.23

千葉千春氏現代書会の四に会関西の会の連絡 この日を待ちわび
てお出かけた京の旅だった。若い洋子もがよく送り出してくれこの機会に
のんびり京都に足をのばして来ていたらいとおもってくれ、21日にお発しなのだ
った。60年ぶりかまるのころはよく歩き歩んだものだった。この年令
になり在板は苦手とおかけることも想定していたが交渉していた大阪
の安藤君がいっしょに教師の仕事をしたいと云ったこともあり厚狭の
彼女と行動を共にした今日だった。今日は会の時間もあり
会場も美面のホテルだったので今日の京都まわりは大徳寺と
その塔頭にしぼってみた。言うまでもなく沢山和尚の名寺
で有名な大徳寺 同じ禅宗でも昨日の天竜寺の人出とはくらべ
ものにならないくらい静かな雰囲気だった。この中の大仙院
と高桐院を訪ねてみた。枯山水で日本文化を紹介していた日本人の教養を思い出す。高桐院には細川忠興
紫陽花 牡丹などが咲乱れていた
特に周囲に同化し同会したからシアワセ人の墓もあった。
今日はこのくらいにして疲れたかどうかと下宿君がすすめて
くれるので彼女の案内で大阪梅田に向い金閣寺を
石庭で乗換え美面に向った。ところが思案に暮れた
ところ隣に四に会の榎木さんが坐っていた。彼は気付い
ていなかったらしいけれど声をかけたらびっくりしていた
云いぜの中こんな場所で彼と会えるなんて不思議な
めぐり合わせだった。会場には全員が揃っていた。
懇親などでは忘れられない東京美術による会場だとか
寺本 名永 高田 榎木 宇野 林田 栄谷 森本 知らない
人が二人見えており 会話を知ることに

酔ってからは検歌も無理だからと宇野名かつりれして降た
紙士撮影を元気よく歌った 老いなりということもだ。
この会の一人 野田之太郎は作業の不手際でころんで胸おろ
骨が肺につきささったとか 非常な危険な手術とのことなので
全国にいる仲間さんと弟さん(共に医者)の治療が受ける
ため 仙台の病院に入院しているが安静を要するとむずかしい
状況だと聞かせてくれた。ころんだりする様な事が多くなって来た
給も用心しなければならぬ。一人一人の現況報告などでそれ
ぞれの思い出話などに移った
当夜ふけに泊ったのは 松本、横木、寺本、生永、公松の五人
それぞれの交友たるとの消息をそれぞれに聞かせてもらった
近年に関西の会員の参加も少くなって来ているので遠方の会
に応援してもらいたいとせ話人の宇野名が遠来の会に
応援を求めたようだ おそくまで話はつきるかと思
遠路 行かれて参加してよかった。今秋の全国同じ会どう
なることだろうか 中根、溝口氏などの健康も心配なことの
ニュース。また全国に帰ってみればいろいろ情報が伝えられ
ることだろう。